

氏名	前 田 忠 士
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3613 号
学位授与の日付	平成 13 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	Prognostic Factors in Advanced Non-small Cell Lung Cancer : Elevated Serum Levels of Neuron Specific Enolase Indicate Poor Prognosis (進行非小細胞肺癌における予後因子:血清NSE値の上昇は予 後不良であることを示す)
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 辻 孝夫 教授 岡田 茂

学位論文内容の要旨

非小細胞肺癌は、化学療法に耐性を持ち、進行非小細胞肺癌患者の予後は、種々の予後因子に依存する。1978年から1992年の間に岡山肺癌グループにて行われた臨床試験に登録された進行非小細胞肺癌患者の予後因子について、Cox's multivariate analysis の多変量解析とRPA(recursive partitioning and amalgamation) analysis を行った。最初の解析は261名の患者について行われ、PS(performance status)、臨床病期、肝転移、血清アルブミン値が独立した予後因子だった。NSE(neuron specific enolase)のデータを持つ128名の患者に二番目の解析が行われ、NSE が最も重要な予後因子だった。RPA 法を用いて統計学的に異なる予後の3グループが決定した。血清NSE値が正常でPSが良い患者は明らかに予後良好であり、一方、血清NSE値が高値で骨転移がある患者の予後は著明に不良だった。これらの結果より、血清NSE値を含む予後因子の解析は、進行非小細胞肺癌の患者の予後を予測するために有用である。

論文審査結果の要旨

著者らは261例の非小細胞肺癌の予後因子について多変量解析を行ったところ、PS(performance status)とNSE(neuron specific enolase)が重要な予後因子であった。NSEが測定された128例では、NSEが正常でPSが良い群は予後が良好であった。一方血清NSEが高値で骨転移があった群では予後は不良であった。これらから、血清NSE値は予後を予測するために有用なことが示された。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。